

保持して誕生したのが、「溶接鋼管同等以上の継手強度」を備え、作業者の溶接技量に依存することなく容易に接続できるメカニカル形式の耐震性鋼管継手「TASCULJOINT-ER型」（以下、TSJ-ER型）です。

限られていました。また、現行発刊されている耐震設計指針には、橋梁添架管の鋼管継手を対象にした耐震計算法は示されていません。前例の少ない研究ですが、今期が最終年度となりますので、年度



米子市モデル施工 三柳堀川橋(桁下添架)、100A・約18m

## ックス

### 化へ注力

種二層管・1種管ブルー)

#### 積極的な展開を図る

全国各地で自然災害が頻発、甚大な被害も発生している昨今ですが、先行している水管路と同レベルの高い耐震性や100年先を見据えた長寿命性、更新・補修や災害時の緊急復旧などにも力を発揮する給水管であると自負しています。日本水道協会の認証製品となったこともあり、今年4月の本格販売以後、引合いも増え、現在では100を超える事業者で採用のご予定をいただいております。

コロナ禍により展示会の開催が少なく残念ですが、さまざまな機会を捉えてPR活動

を展開しています。ご希望があればお伺いし、キャンペーンカーによるデモンストレーションや講習会を実施し、当社の考え、耐震管路について実感していただいております。

パイプは、呼び径13、20、25、30、40の直管およびコイル管を、EF継手は、呼び径20、25、30をラインナップしております。夏頃には呼び径40のEF継手と呼び径50の直管が追加される予定です。今後もお客様のニーズにお応えし、順次品揃えを拡充していきたいと考えております。



施工現場写真



キャンペーンカー

# 北川鉄工所

## 災害対策に生きる技術力

消火栓・応急給水関連製品



統括本部長

### 木戸口 政弘氏

や水道事業者の皆さんにも、水道利用者の方々にもお役に立てるような商売をしたいと考えています。

#### ■歩いて聞いて「三方よし」へ

北川鉄工所は創業以来、地上式・地下式の消火栓を主力製品としてきたメーカーです。国内のみならず海外でも当社の消火栓を活用いただいております。また、阪神・淡路大震災を契機として緊急時の応急給水活動にも目を向け、関連製品の開発・提供に取り組んでいるところです。

本社は滋賀県彦根市にありまして、目指すところの一つは「近江商人の三方よし」です。全国を歩いていろいろなお話を聞き、自治体

#### ■事業者との共同開発

大規模な地震や水害が頻発する昨今では、災害への備えが最も重要な課題となっています。ものづくりに徹するメーカーとして、消火栓の技術を生かしてお役に立てないものかご要望を聞いて回り、それに応える形で製品開発を進めております。

そういった水道事業者との共同開発で誕生し、全国でご使用いただいている製品も少なくありません。例えば、青森市とは「連結型応急給水栓」を開発しました。有事の際に給水栓や消火栓と接続することで、

より多くの住民の方々へ給水することが可能です。仙台市とは、タンク車へのスムーズな給水が可能な「緊急時給水車用給水栓」や、飲み水供給に特化した「緊急時給水栓」を、横浜市とは、従来よりも強度を向上させた「強化型スタンドパイプ」を開発しました。

#### ■消火栓は初動の要

主力製品である地上式消火栓については、消火栓を設置して年数が経つと、使用頻度や老朽化による不具合が目立ってきます。官公庁の担当の方からは、維持管理に困っている、消火栓の更新にはなかなか手が回らないので消火栓の寿命を延ばしたい、という声を聞くようになりました。

現行製品にはさまざまな工夫改善が施されていますが、海岸沿いの古い消火栓が塩害でひどく腐食して使えなかったり、大昔の消火栓は弁が開閉せず作動しなかったりという事故が何度も起きています。初期消火は人命を左右しますから、そのような消火栓は解消しなくてはなりません。

状態の悪い全ての消火栓を取り換えるのが一番なのですが、現場を歩く中で、そうはいかないことも肌で感じています。とは言え、動かない消火栓に意味はありませんので、たとえ他社製品であろうともご相談いただいた時は点検・修理をさせていただき、維持管理のお手伝いをしています。

信頼関係はそうした中で築かれますので、これからも現場の声に耳を傾けた取組み、製品づくりに努める企業でありたいと思います。絶え間ない製品改良と真摯なメンテナンス・アフターサービスで、安心して安全な水供給に貢献してまいります。



緊急時給水車用給水栓



連結型応急給水栓